

6.2 教育・研究指導のあり方

進捗状況報告

2009年度からの新しいカリキュラムでは、1年次対象のアカデミック・プレパレーション科目（基礎演習、社会学リレー講義）で、学生が後期中等教育から大学教育へ円滑に移行するために必要な導入教育を実施する。とくに基礎演習では、標準化された教育内容にもとづいて、大学で学んで行くためのスタディ・スキルの集中的な訓練を行う。さらに社会学リレー講義では、原則としてすべての専任教員が1回ずつの講義を担当することによって、学生は早い段階で、どのような専任教員が社会学部におり、どのような専門領域を教育研究しているのかを知り、その後の履修の方向づけができるように配慮している。さらに、2年次（以上）対象のインターミディエイト演習は、原則として専任教員が担当し、社会学リレー講義で関心をもった何人かの教員の演習に参加することによって、学習を深めるとともに、3・4年次での研究演習選択へと方向づけていくことができるようにしている。また新しいカリキュラムでは、科目名称をできるだけ分かりやすくするとともに、「学則別表」で、各領域ごとに4つの「テーマ」を掲げて、どのようなテーマを学習するにはどのような科目を履修すればよいかを理解しやすいように工夫している。さらに他方で、複数の領域や系にまたがる複合的な学習の必要性は高く、それを推奨・促進するための「履修モデル」を現在作成している。

学内第三者評価

わかりやすい履修指導を目指して持続的に努力が行われていること、オフィスアワー制度の実質的な充実を目指した取り組みが行われていることなど、教育・研究指導の充実に努めていると認められる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
「6.1 カリキュラムの編成」で述べたとおり、意欲的な新カリキュラムになっているので、成果が期待される。導入教育の実施や履修モデル作成などきめ細かな配慮がなされている。